新設授業科目　授業記録

開講科目名：　女性研究者キャリア論	科目群名【　　キャリア形成　　】
担当教員名：宮坂靖子・本山方子	開講学期・曜日・時限【前期・金曜日　・７・８時限 】

第１回授業実施日 **【 ６ 月 ９ 日】** **① 本時のねらい** **② 本時の内容** **③ 本時の成果** **④ 自己評価**	① 本時のねらい テーマ：１．ガイダンス ２．日本における女性研究者のキャリア形成の現状と問題点 ② 本時の内容 １．ガイダンス：授業の目的、内容、成績評価についての説明など ２．講義：日本における女性研究者のキャリア形成の現状と問題点 （担当：宮坂靖子） まず、日本の女性研究者の現状を国際比較などもふまえて紹介した上で、女性研究者の少ない社会的背景を把握し、女性研究者が活躍できる社会像について述べた。また、近年奈良女子大学で行っている女性研究者養成のための教育プログラムや女性研究者育成の取り組みも紹介した。 **③ 本時の成果** 「魅力ある大学院教育」イニシアティブ「生活の課題発見・解決型女性研究者養成」の教育プログラムや女性研究者支援モデル育成事業「生涯にわたる女性研究者共助システムの構築」の取り組みについてより良く理解してもらうとともに、日本における女性研究者が置かれた状況と近年の環境改善の取り組みについての基本的知識を獲得してもらうことができた。 **④ 自己評価** 授業の開講理由、主旨について、期末のレポートに、「授業の主旨説明が不十分であった」という意見があったので、学生により理解を促すことができるよう説明を工夫することが必要だと思った。また質疑応答の時間がとれなかったので、今後はそのような時間を積極的に確保するようにしたい。 **⑤その他（配布資料）** シラバス 日本における女性研究者の現状と問題点及び改善に向けた取り組み（レジュメ） チラシ（「理系に行こう」in なら）

第 2 回授業実施日 **【 6 月 16 日】** **① 本時のねらい** **② 本時の内容** **③ 本時の成果** **④ 自己評価**	① 本時のねらい テーマ：女性研究者のキャリア形成の実際（1）学生時代から就職まで ② 本時の内容 ゲストスピーカー:高岡尚子先生、奈良久美先生、藤平眞紀子先生 ゲストスピーカーの3人の先生から、学生時代の生活や研究者になるまでの体験談を語っていただき、質疑応答を行った。 **③ 本時の成果** 先生方の学生時代の体験や就職までの過程を聞くことにより、学生が自分自身の問題を前向きに考えられるとともに、研究者の将来像を描くことができた。身近なロールモデルの体験談や学生生活に対するアドヴァイスは非常に 有効であった。 **④ 自己評価** 主な受講生は文系の学生であるが、自分たちの立場を相対化し捉えることも必要であると考え、理科系の先生も含め三学部から多様な専門の先生方の体験談を聞けたことはよかった。ただし、第1回目の授業内容から第2回目の内容へ移行が少々唐突すぎた感もあるので、授業の流れについての説明を 加える必要がある。身近な先生の体験談を聞くことにより、女性研究者のキャリア形成についてのイメージを持ってもらうことができた。 **⑤ その他** 感想記入。配布資料なし。

第 3 回授業実施日 **【 6 月 23 日】** **① 本時のねらい** **② 本時の内容** **③ 本時の成果** **④ 自己評価**	**① 本時のねらい** テーマ：女性研究者のキャリア形成の実際（2）研究者としての生活 **② 本時の内容講義：** ゲストスピーカー:吉田容子先生、松岡由貴先生、瀬渡章子先生 ゲストスピーカーの3人の先生から、前回と同様に、就職から現在の教員生活を語っていただいた。また松岡先生からは、理学系の女子大学院の置かれた状況やキャリア形成プロセスの問題点についての説明があった。 **③ 本時の成果** 身近な先生方の体験談を通して、大学教員の仕事と生活や、ライフコース、仕事と育児の両立などについての理解を深め、自分のライフコースを考えることができた。 ④ **自己評価** 先生方の体験談から、大学教員までのキャリア形成と現在の教育・研究にかかわる仕事をライフコースの視点から考える機会を主体的にもつことができた。先生方の体験談を聞く機会を持つことは学生のキャリアプランの形成にとって非常に有用である。 **⑤ その他** 感想記入。配布資料なし。

第 4 回授業実施日 **【 6 月 30 日】** **① 本時のねらい** **② 本時の内容** **③ 本時の成果** **④ 自己評価**	**① 本時のねらい** テーマ:「大学院時代の資源活用と研究者の課題」(担当:本山方子) **② 本時の内容** 自身の大学院時代の話をもとに、大学院時代の過ごし方や資源の利用(研究対象・分析視角・ネットワーク等)、研究テーマの設定の仕方、研究に取り組む姿勢や研究倫理、(女性)研究者の生き方について説明した。 **③ 本時の成果** 大学院時代に活用すべき資源を、研究課題とネットワーク形成の観点から理解する機会を提供し、研究者の課題を研究者の仕事と研究者の倫理という観点から掘り下げて考えてもらうことができた。 **④ 自己評価** 大学院時代の過ごし方や研究者の課題をユニークな観点から、学生にもわかりやすい説明がなされた。今自分達が何をすべきなのかという大学院時代のプランを考える具体的な素材を提供したことは、学生自身のキャリアプランを考えることに役立った。 **⑤ 配布資料** 「大学院時代の資源活用と研究者の課題」(レジュメ) **⑥ その他** 感想記入。

第 5 回授業実施日 **【 7 月 7 日】** **① 本時のねらい** **② 本時の内容** **③ 本時の成果** **④ 自己評価**	① 本時のねらい テーマ:研究者キャリア形成のための諸問題とそれへの対処 **(1) 学生による課題発見 ＊学生によるディスカッションと発表** **② 本時の内容** 担当:宮坂靖子、本山方子 班分けを行い班毎に、「女性研究者になるための課題・疑問点」というテーまでディスカッションを行った。KJ法などを用いて課題と疑問点を洗い出し、図化し班毎に代表者が発表し質疑応答を行った。 **③ 本時の成果** 大学院生生活を送る際に感じる悩みや研究や将来(就職等)に関する不安や悩みなどを共有できたことがよかった。グループワークには難しさもあるが、同時に共に課題を発見し、解決していくという機会として貴重であることがわかった。 **④ 自己評価** グループワークに対するメンバーの感心度・参加度に班による違いがみられた。研究者になるための課題・疑問点は専門により違いもあるので、その点も配慮してグループ分けを行うことも検討してみたい。 **⑤ その他** グループ作業の結果(図表)の提出。 配布資料なし。

第 6 回授業実施日 **【7 月 14 日】** **① 本時のねらい** **② 本時の内容** **③ 本時の成果** **④ 自己評価**	① 本時のねらい テーマ:「私の歩いた道－女性研究者としての課題とその対処」 ゲストスピーカー:林田佐智子先生 **② 本時の内容** 林田先生のライフヒストリーを、特に結婚・子育ての観点から、また就職後の姓に関する問題をご自身の体験から語っていただいた。 **③ 本時の成果** 特に林田先生の結婚後に生じた姓の問題を通して、女性研究者特有の問題や姓の問題が個人のアイデンティティにかかわる基本的人権の問題であることの理解を深めることができた。 **④ 自己評価** 林田先生のお話は学生の興味関心を大きく引きつけるもので、活発な質疑応答が行われ、非常に有意義であった。授業の構成としては、林田先生の講義は第4回あたりに入れるのが適切であった。また、この回には、先生の講義の後に前回のグループワークの残りの作業を行うことなどを計画していたが、時間の制約により後者は割愛せざるをえなかった。 **⑤ 配付資料** 「私って誰？」、[資料1]「S先生への手紙」、[資料2]、「技術者たちの肖像」(以上、林田先生による) **⑥ その他** 感想記入。

第 7 回授業実施日 **【 7 月 21 日】** **① 本時のねらい** **② 本時の内容** **③ 本時の成果** **④ 自己評価**	① 本時のねらい テーマ:研究者キャリア形成のための諸問題とそれへの対処 (2)課題の解決に向けて 担当:宮坂靖子、本山方子、ゲストスピーカー:春本晃江先生 **② 本時の内容** まず初めに春本先生から、女性研究者支援モデル育成事業「生涯にわたる女性研究者共助システムの構築」の取り組みについて説明があった。 次に、研究者になるまでの奨学金取得方法、採用試験等の説明、キャリアパスについての補足説明を行った。その後、第5回授業でグループワークを行なった作業「研究者キャリア形成のための諸問題とそれへの対処:学生による課題発見」で提起された問題の解決についての質疑応答を行い、教員3名が自らの経験に基づいてアドヴァイスを行った。 **③ 本時の成果** 前々回の授業において班単位でまとめた問題を整理し、提起された問題に対する対処法について考えることができた。学生の作業へのフィードバックの機会となった。 **④ 自己評価** 研究者としてのキャリア形成に関する課題発見・解決という大きな枠組みの中の「解決」を考える時間であったが、時間の制約により 解決法について班で話し

	合いをする時間がもてなかったのは、大きな反省点である。教員からのアドヴァイス受けて、学生自らが課題の解決に向けて考える機会を与えるべきであった。第5回の授業での話し合いの時点で、各班に先生を配置し、その都度先生からのアドヴァイスを受けられるようにしておくことも、学生の満足度を高めることにつながる可能性があると考えられる。 **⑤　配布資料** 学生の作成した図のコピー 研究者となるための問題点－各班のまとめ－ 教育研究支援員制度について キャリアパスについて（レジュメ） 社会生活環境学専攻　博士学位取得基準